



とその家にある古い美しいストーブにまつわる話です。このストーブは芸術の都ニュールンベルグという町の高名な陶工（焼き物を作る作家）の作品です。オーガスト君の家は貧しく、母を亡くし、父と子ども達だけで日々の暮らしをしのいでいました。彼はお姉さんの次に年長なので9歳でも家族のために働いています。でもそんな彼と彼の兄弟たちの一番の慰めは家にあるこの高貴なストーブでした。寒空のもと働いても、家に帰ると家族を暖めてくれるストーブが待っている。そしてそのストーブは芸術性の高い彫り物がされ、彼の家ではとても豪華なもので、三代に渡って家を暖めてくれた家族同然のものです。貧しい家族の唯一の誇りでした。ところが、オーガスト君のお父さんは借金の肩代わりにある日そのストーブを売りに出してしまったのです。貧しい生活で少しでも日銭を稼ぐためにお父さんとしても苦肉の決断でした。しかしオーガスト君はそんなお父さんに猛反発します。家の中心の存在だったニュールンベルグのストーブが無くなってしまふことに抵抗します。大好きなお父さんにも口答えします。そしてストーブを引き取りに来た商人によっていよいよ運びだされるとき、彼は大胆な行動をとります。なんと少しの食糧をポケットに入れてストーブの中に忍び込み、ストーブと共に遠くにいる買い主のもとに運ばれていくのです。それは遙か遠い地への長旅でした。いろいろな出来事に遭いつつ、彼は見つからないようじっとストーブの中に身を隠したまま機会を伺います。そしてとうとう彼らがある場所に辿りついたのです。さあオーガスト君の運命は、ストーブの運命は、いったいどうなるのでしょうか。

とても心温まる素敵なお話ですので、是非機会があれば読んでみてください。おすすめします。

実はこの作品の翻訳者（日本語訳）はこの東洋英和の卒業生です。村岡花子さん。あの『赤毛のアン』の翻訳者です。村岡花さんは1903年に皆さんと同じようにこの東洋英和に入学しました。貧しい家に生まれましたが、給費生としてこの英和で学ぶことができたのです。村岡さんは読書が大好きで、学校の図書室にある本を全部読んだといわれています。そして当時の宣教師の先生から英語も徹底的に鍛えられ、卒業後に海外文学を日本の子どものために翻訳することを使命とした人です。そして『赤毛のアン』の翻訳者として有名になります。翻訳以外にも世の人のために社会的な活動もたくさん行いました。村岡さんが在学当時、宣教師ブラックモア先生に読むように薦められたのが今日紹介した『ニュールンベルグのストーブ』なのです。

この本の解説（あとがき）に村岡さんはこのように書いています。

**「私が若いころに強い感銘を受けた『ニュールンベルグのストーブ』と『フランダースの犬』の全訳を今日本の読書界に贈ることのできるのは無上の喜びである。麻布の丘に立つ東洋英和女学院はカナダに多くの後援者を持つキリスト**

教主義の学校で、それが私の母校であり、今年の秋の創立70周年を記念しようとしているのだが、あの学園の古い校舎で『ニュールンベルグのストーブ』を私に読ませたミス・ブラックモアはすでに故人となられた。私の中に強く流れている英文学への愛情と研究心はブラックモア女史によって培われたものである。女史の霊と母校のおもいでに、つつしんでこのささやかな訳業を捧げたい。」村岡さんは今から65年前にこの本を完成させました。その15年後に亡くなりました。村岡さんは遺言でこの『フランダースの犬』を含む4作品の著作権料を東洋英和のために寄附をするとしました。亡くなって50年経ちますが、これまで本が売れ著作権料として学院に入った寄附はとても大きな金額になりました。それらは図書室の本の購入などに使われています。是非、皆さんも村岡さんのようにたくさん本を読んでください。読書は大事です。

先ほどのあとがきの最後に村岡さんはこのように綴っています。

**「私の娘も、同じくそこに学んだ東洋英和女学院の現在在籍を置いている千余の若い妹たちをこめて、日本全土の家庭にこの小さな本が愛されるようにと、私はひたすら祈るものである」**

皆さんのことです。東洋英和女学院の現在在籍を置いている千余の若い妹たちとは、皆さんのことです。皆さんは、村岡さんはじめ大勢の卒業生や先生たちの祈りと願いを受けて、今、この席に座っています。

東洋英和は「伝統校」です。でも「伝統校」の本当の意味はただ歴史が長いだけの学校ではありません。創立者の思いが、今でも生命を持つかのように校内に息づき、そのときそのときの卒業生と在校生にその魂が引き継がれてきた学校。それが「真の伝統校」なのです。折々でさまざまな逆風にも耐え、時代とともに変えるべきものをしなやかに変化させてきたからこそ、今、この時まで最も大切な魂を繋ぐことができたのです。それが皆さんの入学した東洋英和という学校です。そして今、皆さんは敬神奉仕の精神を身につけるべく英和生としての第一歩を歩み出しました。

## ■わたしがあなたがたを選んだ

もう1つ聖書の言葉を紹介します。

ヨハネによる福音書15章16節にはこのような言葉があります。

**「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」**

皆さんは、この東洋英和に入学するにあたり、一所懸命努力をして勉強してきたことと思います。受験のとき、どの学校にしようか迷ったり悩んだりした人もいると思います。中には本当は違う学校に行きたかった人もいるかもしれません。小学部からの人は、あまり考えずにそのまま中学部に入学してきた人もいるかもしれません。

しかしイエス様はこう言っています。

**「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」**

皆さんは神様によって選ばれて、この東洋英和に導かれ、今、この席に座っています。

自分で選んだつもりでいても、実は、私たちは、知ることができない神様の大きな意志によって、その時に最もよいものが与えられているのです。

神様によって、皆さんの最もよい学びの場として、東洋英和が選ばれました。

神様はいつも私たちを見つめ、いつも私たちを愛し、いつも私たちと共にいてくださいます。わたしたちのすべてを知っています。

その神様が皆さんに与えた学びの場がこの学校なのです。だから安心して通ってください。

今日から過ごす東洋英和での毎日を、のびのびと、元気に過ごしてください。私たちに命を与えてくださった神様の期待に応えられるような女性として、自分に与えられた賜物、大きな可能性を存分に伸ばしてください。そして敬神奉仕の精神を身につけ、行うことができる人。真の英和生になってください。

皆さんのこれからの学校生活がよいものとなりますようにお祈りしております。

これを持ちまして私の式辞といたします。

2019年4月8日 中学部長 石澤友康